

# SDGs 探究

氏名： 峯川 昇二

学校名： 奈良県立法隆寺国際高等学校

担当教科： 外国語(英語)

実践教科： 創生(総合的な探究の時間)

時間数： 7 時間

対象学年： 3 年

人数： 38 人

## 【実施概要】

### 【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

SDGsについてその概要を正しく理解するとともに、これから自分たちが生きていく世界の10年後、20年後について考え、高校生である自分たちにできることはなにかを模索する。また、他者の立場になって考えることを意識し、身近にある困りごとについて気づき、対処することができるようになる。

【2】 単元の評価 規準例	(ア) 知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs についてその17の目標や採択されるまでの経緯について理解している。</li> <li>・各クラスで設定された目標について、現状や課題、解決に向けた取り組みについて理解している。</li> <li>・SDGs の達成に向けて必要な情報を適切に集めることができる。</li> </ul>
	(イ) 思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べた情報を他の情報と結び付け、比較することで推移などについて考察することができる。</li> <li>・調べた情報から仮説を立て、その証明のために新しく情報を調べることができる。</li> <li>・調べた情報を効果的に他者に伝えることができる。</li> <li>・他者のおかれている状況を正しく認識し、他者の視点に立って物事を考えることができる。</li> </ul>
	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に向け、主体的に情報を集め、クラスメイトと協力しながら、「私たちにできること」について考えている。</li> </ul>
【3】 単元設定の理由 ✓ 児童/生徒観 ✓ 教材観 ✓ 指導観 ✓ 設定時に想定された児童・生徒の変容	<p>本校には総合英語科があることから毎年渡日生や帰国生が在籍しており、様々なバックグラウンドをもった生徒同士の交流が行われている。取り出し授業や日本語の授業、コミュニティーを活用した進路指導セミナーなど学校として日本語教育やキャリア指導をサポートする体制を整えてはいるが、学級内での普段の生活などでは生徒間の支援が大きな役割を担っていることから、渡日生や帰国生への適切な支援について外国での生活を体験することを通して知る機会を設けるため。</p> <p>また、第3学年では創生（総合的な探究の時間）の授業でSDGsについて調べ、本クラスでは目標4「質の高い教育をみんなに」について調べた。その中で日本での就学率が比較的高い水準にあることを学んだが、学校に通うことと、十分な教育を受けられているかどうかは別であり、学校に通うことのできる全ての生徒が十分な教育を受けられるようにできることはないかについて、考える機会を設けるため。</p>	

【4】展開計画（全7時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs 概要理解</li> <li>課題発見</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs の概要（その理念や採択までの経緯、17 の目標について）について書かれた資料を読む。</li> <li>17 の目標に関するクイズに答え、世界の状況について自分の理解度を知り、同時に情報を取り入れる。</li> <li>フォトランゲージを用いて、北極やマイクロプラスチック、児童労働などの写真を見て気づくことをペアで共有する。</li> </ul>	自作教材
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの作成</li> <li>研究課題の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6人程度の6つのグループを作る。</li> <li>各班が、目標4「質の高い教育をみんなに」に関する6つの課題について模索する</li> </ul> <p>⇒出てきた6つの課題</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>質の高い教育とは？教育先進国の事例</li> <li>質の改善が必要な教育とは？事例</li> <li>「みんなに」の実現度は？</li> <li>教育と生活の関係性</li> <li>日本の目標達成への取り組み事例</li> <li>世界規模の目標達成への取り組み事例</li> </ol>	なし
3・4	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班の調べた内容について情報を収集する</li> <li>中間報告を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班、インターネットや著書から情報を収集する。</li> <li>集めた情報を結び付け、比較、考察を行う。</li> <li>集めた情報から仮説を立て、立証に向けて再度情報を収集する。</li> </ul>	インターネット
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の就学率99%の実態について知る</li> <li>「外国に住んでみる」を体験する</li> <li>在日外国人の方と私たちの生活について知る</li> <li>私たちにできることを模索する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントを活用した体験学習</li> <li>グループでの考えの共有</li> </ul>	外国に住んでみる（パワーポイント）
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの課題について情報を共有する</li> <li>「私たちにできること」について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班、クラス内での発表</li> </ul>	生徒自作資料
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラス（7クラス）が調べたそれぞれの目標について見識を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスが調べた目標について、発表する</li> </ul>	生徒自作資料

【5】本時の展開			
過程 時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (3分)	<p>[問いかけ]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の就学率 99%は高い？</li> <li>・就学率が高い＝全員が十分な教育を受けている？</li> </ul>	<p>一つの情報だけで判断せず、常に比較し現状と課題を正しく認識できるよう促す。</p> <p>身の回りの情報を全てそのまま受け入れるのではなく、あくまで自分の目で確認することの必要性を考える。</p>	<p>パワーポイント資料</p>
展開 (41分)	<p>☆体験型学習「海外に住む」</p> <p>※放送や表示を見慣れない言語で行い、言葉が通じない中での生活を体験する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の通じない海外に移り住むことに！</li> <li>・自分もこの国のことを知らないし、その国の人も日本について知らない。</li> <li>・一人にいるときに緊急放送「選択」</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. どっちに逃げる？</li> <li>2. どっちを飲む？</li> <li>3. どれをもらう？</li> </ol> <p>☆意見交流・発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班に分かれて次の議題について話し合う。意見を付箋に書き、A3の用紙に張り付ける。</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体験中どのようなきもちになったか</li> <li>2. もし周り（学校）に、同じように言語がわから</li> </ol>	<p>読みや聞くだけのインプットではなく、できる限り体験的にその状況になるよう工夫する。（以下具体）</p> <p>具体1. 実際に馴染みのない教室風景を示す。</p> <p>具体2. 緊急速報で使われる警報を鳴らし緊迫感を演出する。</p> <p>具体3. 状況カードを利用し、ケガをした状況やもらったアイテムをわかりやすくする。</p> <p>具体4. 実際にミネラルウォーターと経口補水液を利用し、何かわからないものを口にする恐怖感を感じやすくする。</p> <p>1. の質問には、不安や恐怖だけでなく、終わるのではなく、周りに何を求めるかや、こんな制度であればいいのについてまで考えるよう促す。</p>	

<p>まとめ (1分)</p>	<p>ず困っているクラスメイトがいたら何をするか</p> <p>3. もし周り（社会）に、言語がわからず困ってる人がいたらどのような支援ができるか。</p> <p>・各班の代表が発表をする。</p> <p>知識として知っているだけで終わらずではなく、実際にアクションを起こすことが大切であることを抑えて授業を終える。</p>	<p>2. の質問については、体験前でも想像できる支援ではなく、実際にその状況で自分が求めている支援について考える。</p>	
---------------------	--	--	--

【授業実践の様子】（本時での写真を添付し、キャプションをつけて下さい）



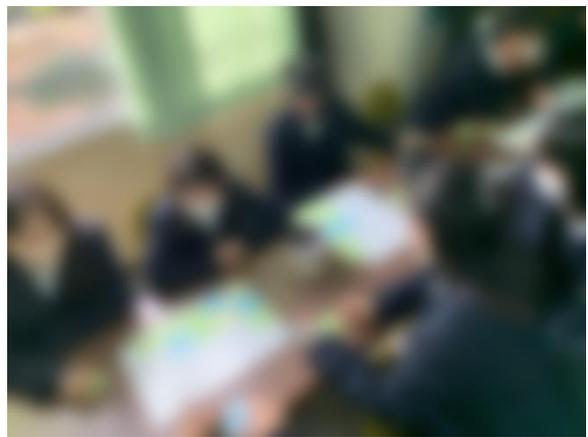
体験学習の概要説明



不安そうに水を口にする



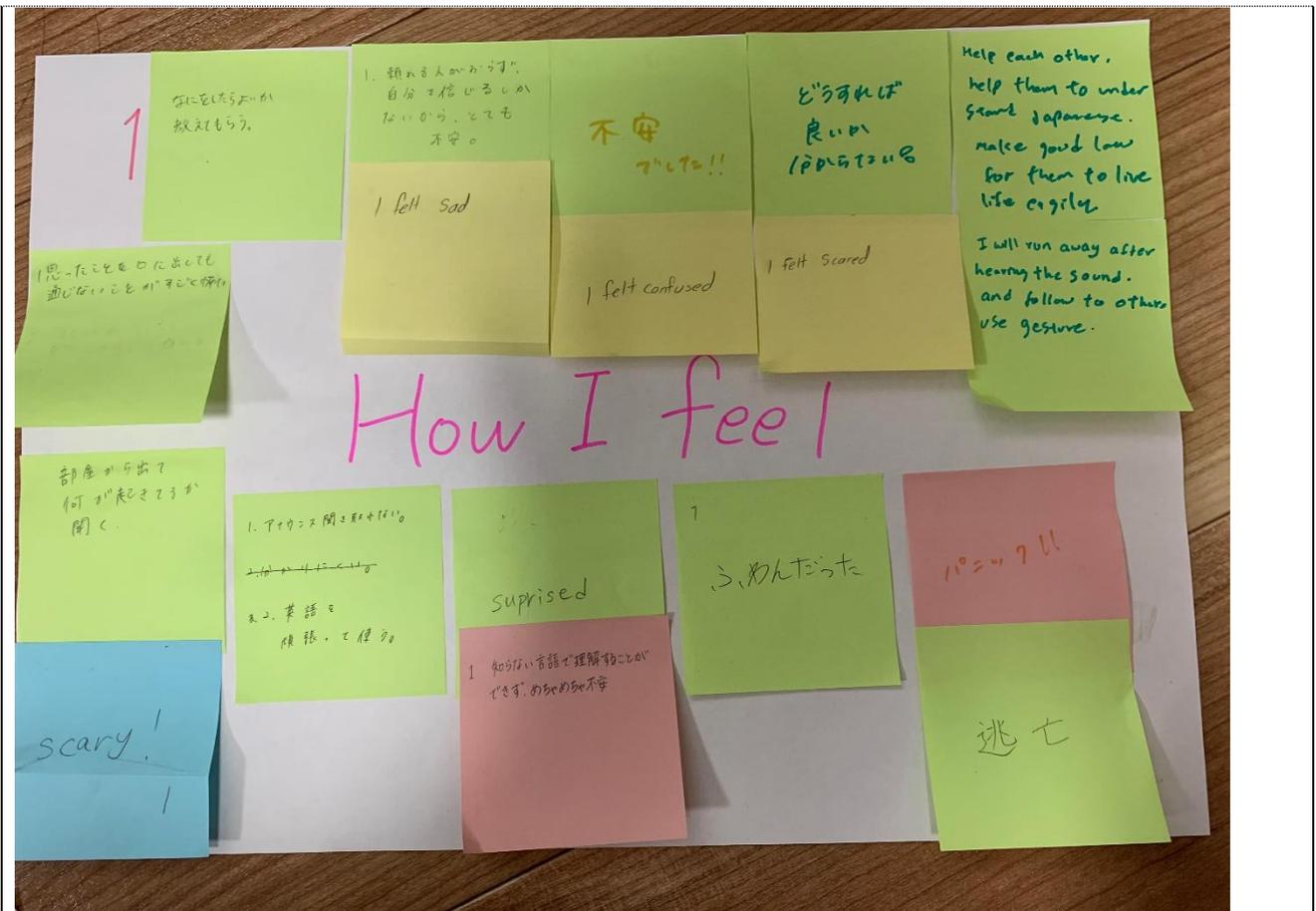
意見交換



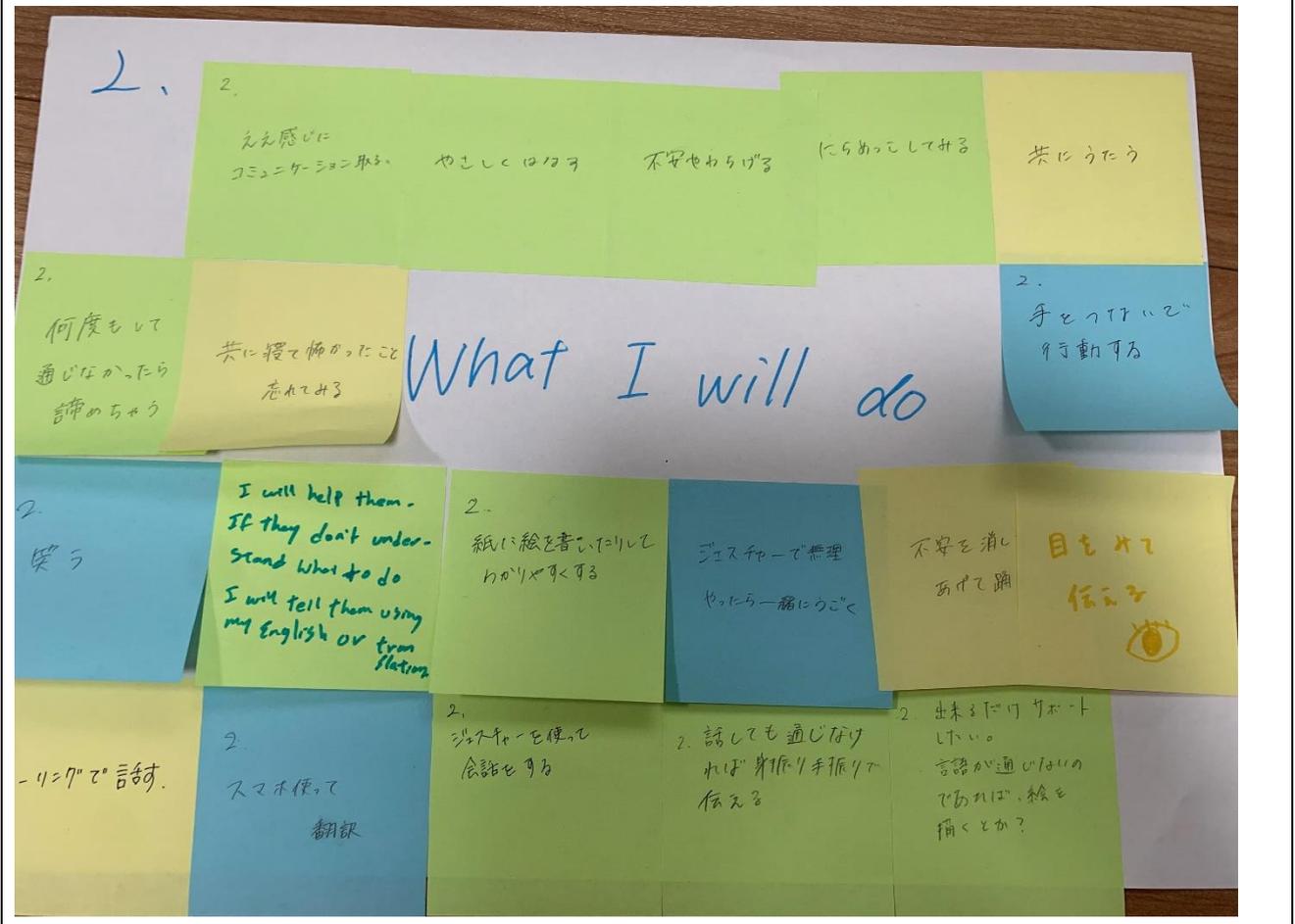
意見交換 2



意見発表



意見交換



## 【6】本時の振り返り

教材については数点改善する必要もあるが、体験的に学習するのに適していた。しかしながら、事前事後学習および学習の雰囲気作りが十分ではなく、中にはめあてに届かずただ体験して終わったと感じているように向けられる生徒もいた。今回体験した内容のように困った経験がある、もしくは困っている人が存在し、自分たちでも支援ができるということをより深く理解してもらうために、事前もしくは事後に実例などを示すのも効果的だったかもしれない。しかしながら、今回の授業は多くの生徒にとって印象的なものであり、その後行動の変化も多くみられた生徒も多くいた。

## 【7】単元を通した児童生徒の反応/変化

・聞いたことのない言葉はとても怖かった。英語や中国語は普段から聞くことがあったから、口調でなんとなく状況が理解できるとおもっていたけど、今日の言葉は全く何もわからなくて知らないことがまだまだあったことに気づけた。言葉がわからない人がいたら、一緒に行動するだけでも役立つのかなと思った。

・小学生の頃、言葉のわからない環境で生活していたことを思い出した。緊急事態ではなかったけど、先生や周りのひとの言っていることが何もわからず、本当に孤独だった。1か月間という期限が決まっていた、学校にはほかにも同じようなプログラムで来ている人もいたから教室の外では不安はなかったけど、それもなかったら今日みたいな気持ちになっていたかもしれない

・普段から〇〇さん（帰国生）と一緒にいるけど、自分が想像していたよりも不安な気持ちがあったのかも気づけた。学校にいるときは一緒だけど、行きや帰り、移動教室のときなどもっとできることがあったかもと思った。

・（帰国生）中学生の時に日本に来た時はこんな感じだった。高校みたいに周りにこんなに帰国生の人もいないし、友達も英語を話せないから不安だった。それでもずっと一緒にいてくれる人もいたからその人のまねをしたり、ついていったりしたらなんとかなっていた。

## 【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲があれば記載下さい】

これまで帰国生や渡日生に対して支援を行っていた生徒も、これまで以上に想像力を膨らませ、本当の困りごとに対処できるよう工夫したいという意見がでていた。また、これまで積極的な交流がなかった生徒においても、学級活動における発言の中で帰国生等への配慮（理解しやすい言葉遣いなど）が見られるようになった。中には、学級だけでなく社会の在日外国人の方の不安や困りごとに関心を持つ生徒も出てきた。

また、今回の授業を経て海外に行くことに不安を感じた生徒がいる一方で、「違い」に興味をもちもつと多くの違いに触れたいと海外進出に意欲的になった生徒がいた。

## 【授業を通じた途上国・異文化・多文化共生等への意識の変容について記載下さい】

## （授業前）

メディアを通して世界には不安定な生活を送っている人や、環境破壊などが存在するのは知っているが、遠い場所で起こっていることであり、私たちにできることはない。もしくはしてもほとんど意味がないというような感覚を持っている生徒が多くいた。

## （授業後）

世界の教育に関するこれまでの歴史や現状について理解し、教育が生活にどれほどの影響を与えているのかに気づいた。また、困っている人間は身近にいて、自分の支援がその人たちにとって意味のあるものであることに気づいた生徒が一定数でてきた。

## 【8】自己評価

1. 苦勞した点	最も留意したのは、今回の学習が講義形式になり知識だけを取り入れ、行動への動機づけには繋がらないという結果にならないよう、あくまで普段の生活との関わりを深くなるようにしたこと。SDGs の学習において、日本では比較的それぞれの課題が見えづらい、もしくは生徒の私生活には直結していないことが多いので、自分には関係がないから知らなくてよいという考えにならないよう気を付けた。
2. 改善点	今回は緊迫感を感じやすいよう学校における緊急事態を想定した内容にしたが、より日常的なものを取り入れた内容も効果的である可能性がある。また、45分の授業では時間が十分ではなく、意見交換に十分に時間をとることができなかった。各班を周りより多くの問いかけをすることで学習を深められたかもしれない。
3. 成果が出た点	生徒からのフィードバックを見ると、世界の教育事情について理解するとともに、自分たちが普段何気なく受けている教育についても振り返って考えることができた様子である。また、自分だけでなく周りの人（今回は帰国生に絞られていたが）への配慮についても、自分の経験だけを頼りに支援するのではなく、相手の立場になることの重要性やその難しさについても学ぶことができた様子である。
4. 備考（授業者による自由記述）	下記にある Glocal net Shiga 様が提供してくださった教材は大変扱いやすく、体験型学習において効果的な教材であった。この教材をよりよく使用するためには授業の雰囲気づくりと、事前事後学習が重要であり、今回私の行った授業ではその部分は不足していた。渡日生や帰国生は日本全国に多く存在することを考えるとこの題材における学習は本校だけでなくより多くの学校で実施されることが望ましく、知識のインプットにとどまらず、気づいた内容を行動に移すような動機づけをより多く取り入れることで、環境の変化につながることを期待したい。

添付資料：

- 別途パワーポイント提出

参考資料：

- 「言葉がわからない」体験ゲーム 何が起こった？（震災編）（公財）滋賀県国際交流協会 国際教育研究会 Glocal net Shiga
- 出入力在留管理庁「令和2年6月末現在における在留外国人数について」（パワーポイントにあるデータの参照）

[https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/nyuukokukanri04\\_00018.html#:~:text=%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%92%E5%B9%B4%EF%BC%96%E6%9C%88%E6%9C%AB%E7%8F%BE%E5%9C%A8%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E4%B8%AD%E9%95%B7%E6%9C%9F,%EF%BC%96%EF%BC%85%EF%BC%89%E6%B8%9B%E5%B0%91%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F%E3%80%82](https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/nyuukokukanri04_00018.html#:~:text=%E4%BB%A4%E5%92%8C%EF%BC%92%E5%B9%B4%EF%BC%96%E6%9C%88%E6%9C%AB%E7%8F%BE%E5%9C%A8%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E4%B8%AD%E9%95%B7%E6%9C%9F,%EF%BC%96%EF%BC%85%EF%BC%89%E6%B8%9B%E5%B0%91%E3%81%97%E3%81%BE%E3%81%97%E3%81%9F%E3%80%82)

## Living in a foreign country??



Please imagine...

You were born and brought up in Japan. You can speak Japanese perfectly and English a little. Because of your parents' work, it is decided that you will move to another country which you don't know anything about with your family.



A week after you arrive in the new country, you go to school for the first time. A teacher introduced you to your new classmates and told them that you came from Japan. However, nobody knows anything about Japan and you cannot understand their language at all.



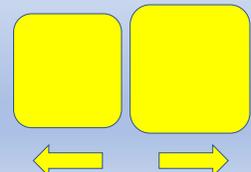
When you are in the school library alone, you suddenly hear this...



In a few seconds, an earthquake happens, and you realize that it was an earthquake alert.

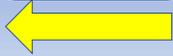


You get out from the library right away and try to go outside. On the way out, you see two signs in front of you.

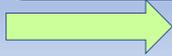


**CHOICE 1**

Percorso di  
evacuazione

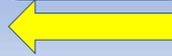


Pericoloso!  
Divieto di  
ingresso

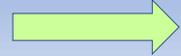


**CHOICE 1**

Evacuation  
Route



Danger!  
No Entry



Percorso di  
evacuazione

You safely got out...



Pericoloso!  
Divieto di  
ingresso



You had to walk on the dangerous  
path... And you hurt your foot...



You went to the school gym for evacuation.



After two hours...  
You were getting thirsty.  
Then you heard an announcement.



**CHOICE 2**

When you follow other people, you saw them receive two kinds of bottles. Which one do you drink?

Drikker vand



Genvundet vand



We are providing you with two kinds of water. One is drinking water and the other is non-drinking water. Don't drink the second one.

Drinking Water



Non-Drinking Water



If you choose

Drikker vand



If you choose

Genvundet vand



You hear the next announcement.



Bộ sạc



Mũ sắt của lính



cái mền



Dụng cụ y tế



You hear the next announcement.

Charger



Helmet



Blanket



Medical Supplies



Can you imagine what life would be like without comprehensible language?



Group Discussion

1. How did you feel while imaging the scenario?
2. What will you do if you see a foreign student who doesn't speak Japanese?



在日外国人の方の人口を知っていますか？



ヒント！

奈良の人口・・・131万人（令和3年11月1日）

~~A. 67万人~~

~~B. 179万人~~

C. 288万人

当たり

令和2年6月末

We have many foreigners living in Japan, who contribute to Japanese society.

But... do you think we can return the favor? Have we been able to make a comfortable environment for them?

日本の義務教育の就学率・・・99.96%

文部科学統計要覧（平成30年度）参照



ほぼ全員が就学できている状態



ほぼ全員が十分に教育受けられている

Group Discussion

3. What should we do to help all people who don't speak Japanese? ( in society )

